

アサリ垂下養殖の意義と普及に向けた課題

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-08-06 キーワード (Ja): アサリ; 種苗; 垂下養殖; 天然採苗 キーワード (En): 作成者: 日向野, 純也, 浅尾, 大輔 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010589

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



アサリ垂下養殖の意義と普及に向けた課題（総論）

日向野純也・浅尾大輔

アサリはほとんどが天然資源の漁獲に依存し、干潟での養殖は全生産量の6~7%を占めるにすぎない。近年、アサリの垂下養殖が着目されているが、まだ普及していない。しかし、1980年代以降におけるアサリ漁獲量の急激な減少により垂下養殖を含めたアサリ養殖の意義は大きい。アサリの養殖には種苗の確保と適切な施設や器材が必要であるので、本論では網袋を用いたアサリ天然採苗および垂下養殖に適した器材や場の選定について論じた。垂下養殖の普及に向けては、環境条件に合う養殖方法の選択と収益性の確保が必要条件である。そのためには、地元産種苗を用いるなど付加価値の向上および干潟養殖と垂下養殖の組合せなど生産の効率化が必須である。